

主要生命保険会社の令和5年3月期決算の概要

1. 損益の状況（単体）

- 保険料等収入は、海外金利の上昇により、一時払外貨建て保険の販売が増加したことなどから、前年に比べ増収。
- 当期純利益（純剰余）は、新型コロナウイルス感染症に係る給付金の支払増加等による基礎利益の減益に加え、有価証券売却損益の減少等によるキャピタル損益の減少などから、前年に比べ減益。

（単位：億円）

	令和3年3月期	令和4年3月期	令和5年3月期	前年比
保険料等収入	266,898	275,187	318,341	43,153
基礎利益	38,380	38,852	27,695	▲11,157
キャピタル損益	4,310	7,759	▲307	▲8,067
臨時損益	▲11,808	▲15,639	▲2,642	12,997
特別損益	▲5,009	▲4,070	▲806	3,264
当期純利益（純剰余）	18,729	19,452	16,656	▲2,795

（注）令和4年9月期より基礎利益の算定方法について、為替に係るヘッジコストを基礎利益に含める等の改正を実施。これを踏まえ、多くの会社が前期分についても同様の方法で算定。

2. 健全性の状況（単体）

- ソルベンシー・マージン比率は、海外金利の上昇による、その他有価証券評価差額金の減少等から、前年度末に比べ49.5%ポイント低下。

（単位：%）

	令和3年3月期	令和4年3月期	令和5年3月期	前年度末比
ソルベンシー・マージン比率	1007.4	994.3	944.8	▲49.5Pt

（注）日本生命、第一生命、明治安田生命、住友生命、太陽生命、大同生命、富国生命、大樹生命、朝日生命、ソニー生命、ジブラルタ生命、アクサ生命、アフラック生命、メットライフ生命、東京海上日動あんしん生命、第一フロンティア生命、三井住友海上プライマリー生命、プルデンシャル生命、三井住友海上あいおい生命、かんぽ生命の20社を集計。